

# 第1回専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会  
委員長 館 正知

平成6年2月19、20日に実施された標記試験は第一回試験でもあり、今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会はこの試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。そこで、以下に若干の解説と共に、筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

## 1. 筆記試験

筆記試験の目的は、専門医として必要な最低限の産業医学、産業医活動に関する知識、技術の内、筆記試験に適すと考えられるものに関して、個別の到達度を見ることとした。具体的には、以下の通り、記述式5問と〇×式50問が出題され、解答時間は3時間とした。記述式の5問は、必須2問、5問からの選択2問、6問からの選択1問で構成された。

### { 筆 記 試 験 問 題 }

## 2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的とした。口頭試験では、5名を1組とする小グループ単位で、A-1、A-2、Bの3種類の試験が実施された。

### 【A-1試験】

予め試験委員が用意した以下の10問を90分間の間に順次グループに課し、相互に補完し合いながら解答させた。問題は、知識と経験にまたがり、客観的解答に達し得ることを目標に出題した。最初は問題文だけを読み上げ、それで解答が行き詰まった場合、試験委員は各問の要点の内から適当と思われる項目を選び、追加質問した。

- 1) 最近の労働衛生行政の重点課題について述べよ。
  - ・労働災害防止計画
  - ・T H P
  - ・騒音対策
  - ・M S D S
  - ・快適職場
  
- 2) 職業性疾患が、労災保険の業務上疾患として認定され、補償されるまでの過程を述べよ。
  - ・対象となる労働者
  - ・業務関連性を疑う契機
  - ・申請の方法（申請者、提出先）
  - ・業務上となる要件（労基法35条、認定基準、業務起因、業務遂行）
  - ・認定権者、方法（不服申請、民事請求権）
  - ・補償内容、期間
  - ・産業医の関与
  
- 3) 産業医を体験中に遭遇した健診の事後措置で、貴方自身にとって課題として心に残されたものを一つ挙げて、事由を概説してください。
  - ・申し出順に全員を指名
  
- 4) 健康診断の結果、G O T, G P T,  $\gamma$ -G T Pの3項目から生じる異常と判断される状態を、まず出現頻度、事後措置の重要度の組合せ等から分類し、次にそれぞれについてどの様な対応が必要かについて述べよ。
  
- 5) 特殊健診の意義、目的について述べよ。
  - ・環境管理との関係
  - ・対象者の決定方法（作業方法・暴露濃度、作業頻度、離職後期間）
  - ・判定と事後措置
  - ・バイオロジカルモニタリングと環境濃度の関係
  - ・同じ職場で1人だけモニタリング値が異常に高く出た場合の事後措置
  
- 6) 従業員が3～4名の板金塗装を主体とする自動車修理工場を想定し、安全衛生両面からの危険予知をしなさい。

- ・有機溶剤（塗装、洗浄）
- ・粉じん（吹き付け、サンダー、グラインダー、ガス熔断、電熔、研磨材）
- ・アスベスト（ブレーキシュー）
- ・鉱物油
- ・接着剤（硬化材）
- ・排気ガス（CO）
- ・振動（回転工具）
- ・騒音（回転工具、高圧エアアー、板金）
- ・有害光線（電熔、赤外線乾燥機）
- ・重量物落下（クレーン、リフト）
- ・はさまれ
- ・グラインダ砥石破損
- ・火傷
- ・重量物挙上、不良姿勢、引金付き工具、繰り返し作業
- ・感電

7) 企業におけるエイズ対策のあり方について述べよ。

- ・教育の方法論
- ・安全衛生規定
- ・感染者が出た場合
- ・発症者が出た場合

8) 女性労働者に対する労働衛生、健康管理について述べよ。

- ・環境（物理、心理）や有害物に対する感受性
- ・生理、妊娠、出産、育児
- ・雇用条件の差（パート、一般職）

9) 企業におけるメンタルヘルス活動の意義、目的、方法を述べよ。

- ・ストレス軽減対策
- ・ケースの早期発見
- ・ケースに対する個別対応
- ・発症したケースに関する職場、事業所へ対応
- ・アルコール依存症への対応

10) 職場巡視の目的、方法について述べよ。

- ・ 事前準備（連絡、工程図、配置図、環境測定記録）
- ・ 初回巡視と定期巡視、共同巡視と単独巡視
- ・ 安全と衛生
- ・ 環境と作業方法の巡視、作業者の観察、実態把握
- ・ 産業医活動の周知
- ・ 評価、報告の方法
- ・ 記録
- ・ 事後措置

【A-2 試験】

その場で、大きな紙に印刷した下記の問題文を順次グループの前に提示し、1題30分で討議し、グループとしての結論を出すよう要求した。この問題は、一定の解答には達し難いような質問、たとえば、倫理、経営者・労働者との連携等に関する課題を選ぶことを目標に選定した。進行は受験者に任せ、会の運営、協調性等も評価の対象とした。

1. 産業医の社内組織における地位と権限

法で定める産業医の職務は多様です。貴事業場において特に重要と思われる産業医の職務について説明して、その職務を遂行するために必要な産業医のリーダーシップについての考えを聞かせて下さい。

2. 復職、適正配置

ある運送会社では一般の貨物の運送と危険物の運搬の業務がある。ある38歳の男性の運転手が取引先に塩酸2トンを届けたあと意識を失い、電柱に激突する事故を起こした。運転手には外傷もなく意識もすぐ戻った。意識不明になった原因を追求したところ、動脈瘤が見つかり、レジン補填術を行ったが成功せず、開頭術で動脈瘤の除去を行った。開頭手術後、丁度3ヶ月目に、抗てんかん剤が処方され、入社してきた。彼は元の職場への復帰を願って産業医の復職診断を求めてきた。彼の給与は固定給が低く、運転業務に携わらない時には、運務に携わっている時の半分以下しかなく、一日も早い元の職場への復帰を希望している。この際、産業医が考えるべき問題点について列挙して、問題解決をして下さい。

### 3. T H P の考え方

健康増進 (Health Promotion) についてお尋ねします。

○Health Promotion に関するオタワ憲章 (WHO 1986) の目指す意義は？

参考：憲章の要旨 (高田 昂)：産業医活動マニュアルより

「健康は社会、経済および個人の発展にとって大切な資源であり、  
生活の質の重要な要素である」「ヘルス・プロモーション活動の推進  
によって、健康を取り巻く諸条件を健康によいものにつくりかえてい  
くこと」

○「法」69・70条・心身両面にわたる健康の保持増進のための指針が  
示すT H Pの産業現場での具体的展開手順を述べて下さい。

○指針は、あくまでも行動が主体として記載されたものと解釈されます。

貴方の企画・運営するT H Pが生み出したい結果について述べて下さい。

#### 【B試験】

当日個人単位に下記の1題を割り当て、2時間の準備時間で内容をまとめ、グループ単位で、OHPを用いて1人10分で発表し、その後質疑応答をした。課題の内容は、プロジェクト、健康教育等の企画とし、これを、安全衛生委員会や労働者、経営者に説明するという設定とした。準備のために、法規、統計、ハンドブック等の基本的な参考書を用意した。

1. 15,000人を抱える企業の産業医です。40歳以上の所員は50%にちかく、  
昨年の在職中死亡は18人(悪性新生物による死亡は72%)企業の保健婦は2  
名で主として健康診断のデザイン・有所見者の指導(通俗的)を実施しています。  
また健康保険組合は企業とは別に組合事業として保健婦による相談事業を進め  
ています。健康診断結果は労働省の発表した全国平均に近いとして貴方はこの企  
業に働く職員の安全衛生管理活動計画をどのように作成し、その実践のために事  
務当局・総括安全衛生管理者・経営者・自分のスタッフに対しプレゼンティショ  
ンして下さい。

2. 規模1,000人のある電子工業事業場である。

この事業場では5年後の新規の工場進出の際に、建物、設備を含めて新しい健  
康管理体制の確立を模索している。

新しい健康管理体制については、産業医の青写真を期待している。5年間の準  
備期間を含めた、10年間の長期計画について策定しなさい。

3. 各企業では定年後の生涯教育が色々の形で実施されています。この事業場ではその対象となる中高年齢者が約500名います。この社員に対して、産業医の立場で健康教育を約2時間実施したいと考えています。その企画、発表内容について述べて下さい。

また、医学教育と健康教育の差についても私見を發表して下さい。

4. この事業場では40歳～59歳の男子社員で150人の単身赴任者を抱えています。

職制から、この社員に対する”健康教育”の依頼がありました。時間は1～1.5時間を希望しています。150名を対象に貴方の健康教育の骨格を企画し、発表項目について、その設定をした目的・狙った効果について概説して下さい。

5. この事業場は総合商社の本社部門です。規模は3,000人ほどです。最近、疾病休業者のなかでメンタル面の疾病休業者が増加し、産業医への職制からの相談内容にも同僚、部下、家族のメンタル面の相談が増加しています。担当役員もこの問題に興味を持って来ています。この際、この事業場で産業医の立場でのメンタル面での健康管理対策を立案していただきたい。特にハード面だけでなくソフト面の対策、その効果についても述べて下さい。

### 3. 試験実施結果について

今回は初回の試験ということもあり、受験者のレベルは予想したよりかなり高かったというのが、試験を担当した委員の共通的な印象であった。具体的には、筆記試験の平均点が約80点に達し、口頭試験でも、各問に対して、ほぼ出題意図通りの解答が出たので、試験委員の採点結果もほとんどが最高評点であったということである。

この試験は競争試験ではなく、研修の到達度評価を目的とするので、問題の難易度をできるだけ目的水準に適合させ、かつ、毎回一定水準に維持することが重要である。その意味で、今回の受験者のレベルが、本制度発足の準備過程で設定した要求レベルと比較して高かったとすれば、今回の試験問題が適切な水準であったかどうかについて、多角的な評価をしておく必要がある。この様な評価の一環として、試験直後に、試験委員と受験者から、各試験毎に具体的な評価をしてもらった。その結果は、試験実施上の技術的問題を除いて、試験の難易度については概ね妥当であるとの評価を得ている。試験問題を公表する目的の一つとしては、より広範囲からの評価を受けることにもあるので、お気づきの点があれば是非事務局までご一報を頂きたい。